飛騨地区　家庭教育学級応援通信

飛騨っ子

令和３年２月２日発行　NO１３
飛騨県事務所　振興防災課　振興防災係
家庭教育推進専門職　：　水　口　悟
TEL：0577−33−1111（内線 235）
E-mail：mizuguchi-satoru@pref.gifu.lg.jp

家庭教育と園・学校教育の連携

１ 高山市朝日地区の一貫した取組（学校行事参加型 ＋ 在宅取組型　基本的な生活習慣）

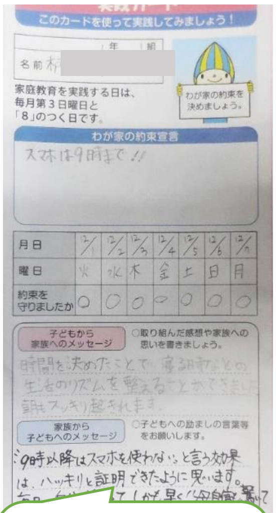
◇ 朝日中学校

質の高い睡眠が 脳をつくります！ 学習内容の定着を図ります！ 疲れた脳を修復します！

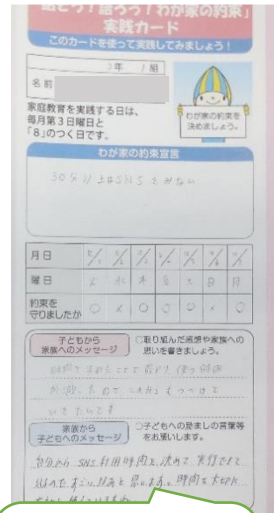
○期　日：１２ 月 １ 日（PTA授業参観・講話・学級懇談会）
○テーマ：眠育の大切さ
○講　師：校長 牛丸千枝さん

中学校では，保小中の取組に先駆けて生徒と保護者がそれぞれ「眠育の大切さ」を学びました。校長先生の科学的で説得力のある話から，子どもたちの健康を強く願う気持ちが伝わってきます。特にコロナ禍を生き抜くために，自分の命と健康を自ら・自己責任のもとで管理できる力を育むことが必要です。また，中学生の姿は地域の弟や妹たちをリードします。

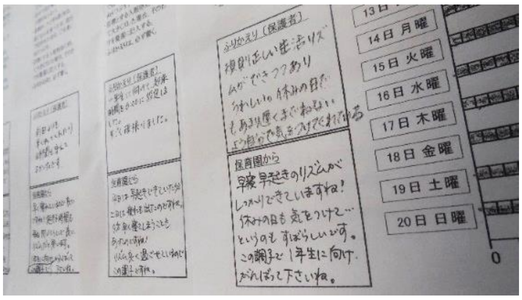
この研修には，朝日保育園の保護者会長さん，朝日小学校のPTA会長さん，朝高子どもしとねる会（CS）関係者が参加され，保小中が一貫し家族・地域ぐるみで子どもたちの基本的な生活習慣を見守る取組がスタートしました。コロナ禍が続く中，保護者会やPTA役員皆さんの主体的な動きが，子どもたちの基本的な生活習慣を支える鍵となります。



午後 ９ 時以降スマホを使わないという効果は，はっきり証明できたように思います。



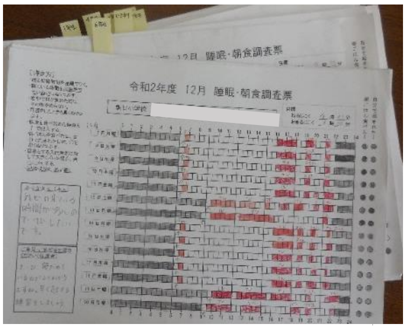
早寝早起きを続けて生活リズムに気をつけ，体調を崩さないよう頑張ってね！



◇ 朝日保育園

「朝高子どもしとねる会（CS）の存在は大きい」「子どもたちのことを熱く語る地域の方々の存在がすばらしい」「一園一小一中であることのよさを活かしたい」「豊かな自然の中で体力づくりを進めたい」「自分は自分！という流されない自己肯定感を育みたい」・・・今年度4月より赴任された園長さんの地域に根ざした子ども観を熱く語る姿が印象的でした。 集められた「１２ 月睡眠・朝食調査票」には，わが子に対する「保護者の助言」と親子の取組に対する「保育園からの助言」がしっかり書き込まれています。保護者のわが子に対する願いは，新１年生入学に向かっています。保育園からしっかりと小中学校への連携が始まっています。

◇ 朝日小学校



＜12 月　睡眠　朝食調査票＞

＜早寝早起き朝ごはんキャラバン隊＞

＜早寝早起き朝ごはんチェックシート＞

調査票には，SNSを利用した時間が赤く塗られていました。また，朝食時刻には矢印（↑）が示されていました。保護者の方々が親子ともに「睡眠の大切さ」を理解し，わが子が主体的に根気に取り組む姿を見守られたことがすばらしいです。

小学校では，低学年を対象に乗鞍青少年交流の家が推進している「早寝早起き朝ごはん」普及啓発活動を実施しました。現在の取組をより充実させるために，他団体の啓発活動を上手く組み合わせるアイディアもすばらしい。「早寝早起き朝ごはんキャラバン隊」の登場は，児童の意欲を高めることに効果的です。

中学校まで引き継がれる眠育ファイル
朝日中学校生徒さんの小学校5年生時の
「グッド睡眠賞」!!

◇ 眠育フアィルの存在

朝日保育園と小中学校では，平成 28 年度から「眠育」に取り組み‘5年目’となります。今年度は，コロナ禍により各PTAの事業が例年のように進まない中，保小中が同じ時期（12 月 7 日～20 日）に「睡眠・朝食調査」に取り組むこととなりました。兄弟姉妹がいる家庭環境の効果を考えたり保小中保護者の一体感を生み出したりする上で有効な取組です。また，朝高子どもしとねる会（CS）を基盤とし小規模校のよさを活かした一貫性のある取組としてのすばらしさがあります。

地域の子どもたちの成長を願い，保小中の保護者会・PTA 役員の方々が中心となり，今年度の成果と課題をまとめ，引き継がれることに期待します。

園・学校関係者の皆様

ご多用の中，家庭教育学級実施など調査にご協力を頂きありがとうございました。

保護者の皆様

岐阜県では，家庭教育学級を5つの形態で示しています。

今年度，皆さんが計画・運営してきたのは どの形態なのかを整理 しておくと，来年度に役立つと思います。

A行事参加型　B体験活動参加型　C講演会型　D子育てサロン型　E在宅取組型

2. 下呂市立下呂小学校　（学校行事参加型 ＋ 在宅取組型　命の大切さ）

〇期　日：令和2年12月1日　PTA 授業参観にて

〇テーマ：『いのちのふれあい』

〇内　容：性教育「生命誕生」 ～自分はどのようにして生まれてきたのだろう～

地域と学校と家庭みんなで，下呂の子の幸せを願う講座！

14年間続く「いのちのふれあい講座」

この講座は NPO 法人サンはぎわらさんが下呂市の委託を受け，中学 3 年生を対象に一年間に各校 4 講座行っている性教育です。下呂市全ての子どもに，誰もが‘大切な存在である’ことを知ってもらいたいという強い願いのもと，毎年市内の養護教諭さんと話し合いを重ね，学校と連携しながら行っています。この講座が今年度から，市内の小学校 5 年生でもスタートしました。

「あなたは，〇〇gだったよ」

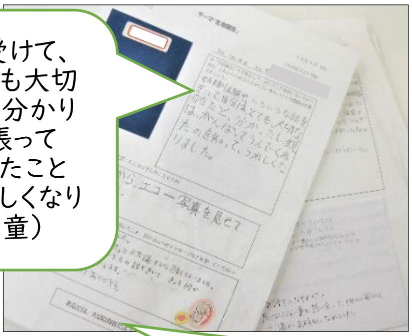
下呂小学校では，PTA　授業参観でこの講座を行いました。地域の助産師さんから，受精の仕組みや胎児の成長について専門的な話をしていただきました。コロナ禍のため来られなかった妊婦さんはビデオで登場し，赤ちゃんの心音を聞かせたり，「心配もあるけど，とても楽しみ」と今の心境を話したりしてくださいました。その後，子どもたちは乳幼児ママ・助産師さん・地域の方による体験コーナーを順にまわり，赤ちゃん人形を抱いたり胎児人形に触れたり，子育てのエピソードを聴いたり質問したりしました。保護者の方も真剣に耳を傾けていました。わが子の様子を見守り「あなたは，〇〇g　だったよ」と声をかける姿が見られました。

赤ちゃん人形を抱くわが子にそっと手を添える母親

乳幼児を育てるお母さんとの交流

学校と地域と家庭の連携体制

コロナ禍でもこうして実施することができたのは，学校と地域と家庭の連携体制が整っているからだと感じます。家族だけでなく，先生も地域の方々も**「あなたたち一人一人を大切に思っていますよ…」**そんなメッセージが子どもたちに届く温かい講座となりました。



授業を受けて、自分はとても大切な存在だと分かりました。頑張って生んでくれたことを知って嬉しくなりました。（児童）

家で、初めてエコー写真を見せました。元気に大きくなってくれてありがとう！（母より）

・生まれたときどんなことを思ったのか家族で話しました。いろんな不安があっても育ててくれてありがとうと伝えました。（5 年児童）

・授業後に、息子が「僕が生まれてきたことは、すごいことなんやね」と言ったので、私も「針の穴ほど小さかったのに、よくぞここまで大きくなって！」と伝えました。息子は、この授業で自分の命はかけがえのないものだと感じてくれたようです！（5 年保護者）

・普段家で今回のような話をしたことがなかったのですが、授業参観を通して生命について話ができました。家族間でこのような話をもっとしていこうと思いました。（5 年保護者）

授業後に担任の先生から出た宿題は，「お家の人にギュッとしてもらうこと」（難しかったらハイタッチ）家庭でさらに「あなたがいてくれて嬉しいよ」というメッセージが広がったことを嬉しく感じています。

（下呂市市民活動推進課　田口）